

2012年3月期第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q1

スライド7（四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移）のチャートにおいて、クロネコメール便の取扱数量が第3四半期単体で▲9.3%と減少していますが、第4四半期において▲1.5%と大きく改善する見通しになっている理由を教えてください。

A1

- 第一の理由は、2012年が閏年であるということ、ならびに昨年3月に発生した震災による取扱冊数減少の反動を考慮しています。
- 足元のチャンネル別取扱冊数は、コンプライアンス遵守による荷受の厳格化により、宅急便センター扱いの小口商流市場を中心に減少しています。減少しているメール便のうち、3分の2が請求書等の非取扱分、3分の1が説明不足からくる過剰反応による減少だと分析しています。
- 一方、ダイレクトメールを中心とした大口法人市場は堅調推移しています。第4四半期以降、前述の3分の1の減少分について、お客様へのご説明を含め取扱冊数の回復を狙っていく考えです。

Q2

クロネコメール便の減収は、デリバリー事業の営業利益の下振れ要因となっているのではないかと見えています。

現在の収支構造は、冊数減少が一巡する来期（2013年3月期）の第2四半期まで継続すると考えてよろしいでしょうか？

また、来期（2013年3月期）の第2四半期以降、取扱冊数ベースで、どの程度まで回復できる見通しでしょうか？

A2

- クロネコメール便取扱冊数の回復、ならびに自配率の向上を図ることで収支を改善させてまいります。冊数減少が一巡する来期（2013年3月期）の第2四半期までは現在の収支構造が大きく改善することは考えにくいと思います。
- 来期（2013年3月期）の第2四半期では、前年同期比で、少なくとも今年（2012年3月期）並みの取扱量は確保していきたいと思っております。

Q3

来期（2013年3月期）に見込まれる、法律改正や制度変更といった特殊要因による固定費の増減がありましたら教えてください。

A3

- 現時点で確定しているものはございません。
- 費用増加のリスクとしては、運用益悪化に伴う退職給付費用の増加、IT化推進によるコンピューター費の増加、および市況の状況によっては燃料費の高騰等が考えられます。

Q4

足元の競争環境を踏まえて、宅急便取扱数量が安定的に拡大している背景を教えてください。

参考資料：スライド6（四半期別宅急便取扱冊数・単価動向の推移）

A4

- 弊社は、伸張を続けている通販を中心としたマーケットでシェアを拡大しています。

Q5

労働生産性の進捗状況および今後の展望を教えてください。

A5

- 取扱数量が安定して増加している中で、第3四半期においても人件費を中心としたコストコントロールできており、チーム集配を手法とした労働生産性の改善は確実に進んでいます。
- チーム集配の実施店舗もまだ一部であり、これからが拡大期だと捉えています。来期（2013年3月期）は、一段とスピードを速めて労働生産性の改善を図ってまいります。

Q6

デリバリー事業における、今後の採用ポリシーを教えてください。

A6

- 一部エリアにおいて、定年退職等での欠員をフルタイムで補充することもあるかもしれませんが、原則、取扱数量の増加に対しては、フィールドキャスト（パート社員）を採用し、セールスドライバーとのチーム集配を進めていくことで対応してまいります。
- この施策は、宅急便との共配もあわせて進めることができますので、クロネコメール便の自配率向上にもつながります。

Q7

海外における宅急便事業の収支に与えている影響額を教えてください。  
参考資料：スライド9（海外宅急便事業の進捗状況）

A7

- 上海・シンガポール・香港の3拠点における宅急便事業とコレクト事業の利益は、第3四半期累計で約▲16億円です。  
\* 第3四半期時点において、マレーシアは連結対象ではありません。

Q8

羽田クロノゲートの進捗状況を教えてください。

A8

- 総投資額の変更はございませんが、第2四半期決算説明会でもご説明いたしました通り、羽田クロノゲートは、現時点では2014年3月期下期の稼働開始を予定しています。

Q9

第3四半期において、2012年3月期通期の設備投資額が▲160億減額されています。  
減額分は、来期（2013年3月期）に一部移行予定というご説明でしたが、中期経営計画に発表した設備投資額に変更はありますか？

A9

- 2011年1月に発表いたしました中期経営計画からは大きな変更はございません。

以上